

ICCAEが取り組み中のプロジェクト

ナミビア大学農学部強化支援計画

2001年8月上旬、ICCAEの門平助教授が、国際協力事業団（JICA）の「ナミビア大学農学部強化支援計画」に係わる調査団のメンバーとして、ナミビア大学農学部を訪問した。JICA本部アフリカ課ナミビア国担当者、JICA南アフリカ事務所ナミビア国担当者と3名よりなる調査団は、同計画に関する協力の進め方についてナミビア側と協議し、合意を取り付けた。これにより、ナミビア大学農学部で、農業研究、技術開発を主体的に実施する能力を持つナミビア人教官を育てることを目標に、2001年度から2年間の協力が始まることになった。

この期間中に、長期専門家1名（協力企画、任期2年間）、作物生理、養鶏、統合環境科学の3分野に関する短期専門家各1名が、毎年1～3ヶ月間の任期でナミビアに派遣される。計画には、ナミ

ビア人カウンターパートが、日本人専門家の研究室（日本国内）で3ヶ月間の研修を受けることも、織り込まれている。



写真：ナミビア大学副学長室で「強化支援計画」の合意書にサインを交わす農学部長とJICA調査団団長

アフリカ人づくり拠点（AICAD）プロジェクトの現況

JICAのアフリカ人づくり拠点（AICAD）プロジェクトは、昨2000年10月に黒河内・元タンザニア大使を委員長とするAICAD運営委員会が発足し、引き続き12月には同国内（支援）委員会が発足した。ICCAEからは北川教授が、農学分野からの委員として国内委員会に参加している。AICADプロジェクトのケニアでの活動は、昨年8月、2名の専門家（プロジェクトリーダーと調整員）の現地着任で開始された。

本年1月末に、ケニアの首都ナイロビでケニア、タンザニア、ウガンダの3ヶ国、8国立大学の（副）学長クラスら

が集まり、AICADプロジェクトの実施が正式に合意された。この会議には、ICCAEから北川教授が参加した他、農学分野の短期専門家としてICCAEが推薦した日大・半澤和夫助教授も参加した。

北川教授は同会議参加後、3月中旬まで2ヶ月間ケニアとタンザニアに滞在し、ケニア国内5大学とタンザニア国内2大学を歴訪して、各大学の施設状況やAICADプロジェクトに対する基本的な関心の度合いを調査した。

本年4月はじめから、ICCAEの推薦に基づいて、山本禎紀広島大学名誉教授が、農学分野の長期専門家として1年間の任期で、ナイロビのAICAD事務局に赴任している。

熱帯・亜熱帯地域の野外研究活動にかかわる健康管理セミナー

ICCAEでは本年6月28日、熱帯・亜熱帯地域で野外研究活動にかかわりを持つ（もしくは、関心を持つ）名古屋大学全部局の教職員・大学院生・学生を対象に、「熱帯・亜熱帯地域における健康管理セミナー」を大学院生命農学研究科第10講義室で開催した。

セミナーでは、愛知県衛生研究所・宮崎豊所長が、国別、時代別にみた各種ワクチンの解説、重要な疾病の予防と罹患のリスク・アセスメント、さらにマラリア予防薬の服用の仕方など、TPOを念頭においた健康管理について講演した。それに続いて、農林水産省動物検疫所名古屋支所・守野繁検疫課長および同省名古屋植物防疫所・石本征夫調整指導官が、各検疫所の

業務の紹介と、日本に持ち込み可能な動植物・食品の種類や書類上の手続きについて説明した。

本セミナーには、生命農学、国際開発、文学の各研究科の教官・大学院生を中心に24名が参加した。

